

刑事訴訟法案外二件特別委員會議事速記録第一號

大正十一年三月十七日(金曜日)午前十時二十六分開會
○委員長(伯爵寺島誠一郎君) 是ヨリ引續イテ本委員會ヲ
開會イタシマス、而シテ昨日ハ民事訴訟法中改正法律案竝
ニ身元保證ニ關スル法律案ニ付テ質問應答ヲ重ねタ次第デ
アリマシテ、本日ハ更ニ溯ッテ刑事訴訟法案ニ付テノ御質問
ヲ繼續シテ敷キタイト存ジマス、大體ニ付テノ御質問ガゴ
ザイマスレバ此際シテ敷キマス、大體ニ付テ御質問ガナイ
ヤウデゴザイマシタラバ、各章全體ニ付テノ御質問ヲ得タ
イト思テ居リマス

○子爵池田政時君 是ハ又先ノ章ノ場合ニナックラ詳シク
御説明モアラウト考ヘマスガ、實ハ此法案ニ對シマシテ衆
議院ニ於テ修正サレマシタ簡條ガ多々アリマスヤウニ見受
ケマスガ、先日モ御説明ノ場合ニ當局デ其中デ殊ニ御同意
ノ出來兼ネル簡條、即チ極力反對ヲスルト云フ御話ガアリ
マシタ簡條ガ二三箇條アルト云フ御話デゴザイマシタガ、
此際ドウゾ其簡條ヲ御舉ゲ下サイマシテ其ノ理由ヲ一應御
説明ヲシテ戴キタイト思ヒマス

○政府委員(林賴三郎君) 衆議院ニ於キマシテ本案ニ付テ
大分修正ノ簡條ガアリマスノデアリマスガ、中ニハ政府ニ
於テ同意ヲ致シタ所モアリマスシ、又強テ反對ヲシナイト
云フ程度ノ所モゴザイマスガ、或事項ニ付テハ絶対ニ反對
シナケレバナラスト云フ様ナ所モゴザイマス、其ノ極力反
對イタシマス簡條ハ、條文デ申シマスト云フ百廿三條ノ
削除及ビ百廿三條ヲ削除スル結果トシテ削除若ハ修正ヲ加
ヘマシタ多クノ條文デゴザイマス、ソレヲ舉ゲマスト百廿
七條、百廿八條、百廿九條、百三十一條、百七十條、百七十四
條、百八十條、二百十四條、是ハ何レモ百二十三條ヲ削除シ
ク結果修正ヲ加ヘマシタ簡條ニアリマシテ、百二十三條ノ
削除ニ全然同意ノ出來タ結果、此修正ニモ勿論同意ノ出來
ヌ次第デアリマス、次ハ三百五十一條第三項ノ削除、是モ全
然同意シ難イ點デゴザイマス、ソレカラ其次ニハ五百三十
二條、五百三十五條、此條文ノ中ニ抛棄ト云フ事ヲ削ルト云
フ修正意見デゴザイマスガ、是モ政府ニ於テハ同意イタス
官ガ本條ニ列擧シタヤウナ特殊ノ場合ニ於テハ實際上已ム
コトハ出來ナイ簡條ニナリマス、其理山ヲ大體申上げマス
ルト、百二十三條ハ實際上ノ立場カラ見マシテ、非常ニ重要
ナ事柄ニナッテ參リマス、百二十三條ハ檢事若クハ司法警察
スルト云フコトヲ認メタ法文デアリマス、詰リ斯ウ云フ場
合ノ身柄ノ所在ハ不明ニナリマシテ、サウシテ結局犯人ニ
對シテ刑罰ヲ科スルト云フ事ハ出來ヌノデアリマシテ、刑
法ノ目的ヲ達セラレヌコトニナリマス、ソコデトウシテモサウ云フ弊ヲ矯メ
ハ、是等ノ者ガ所在不明ニナツテ居ルト云フ事ニナリマスト
云フト、良民ハ不安ニ堪ヘナ、良民保護ノ不安ニ堪ヘナ
イ、良民保護ノ方面カラ必要ヲ感ジテ居ルノデアリマス、ソ
レデ法文ニ明カニナツテ居リマス通り、斯ウ云フ特殊ノ場合
ニ在ツテハ、起訴ヲスルダケノ事情ガ備ハツテ居リ、起訴ヲス
レバ犯罪人ニ直チニ勾引狀ヲ出ス條件ガ備ハツテ居ル、併ナガ
ラ其手續ヲスル餘裕ガナ、斯ウ云フ全く特別ノ場合デア
リマス、是ハモウ實際上ノ立場カラ是ガ出來マセヌト非常
ニ困ルト云フコトハ殆ド疑ヒナイ事デアリマス、サウ云フ
次第デ此條文ハ是非此儘存置シナケレバナラズ、斯ウ考ヘ
テ居リマス、此場合ハ第一カラ第六マテ學ゲテゴザイマス
ガ、何レモ非常ノ場合デゴザイマス、例へば第一ノ如キ全ク
少シ猶豫スレバ何處へ行クカ分ラナイ、斯ウ云フ關係デ第
一、第二、第三、第四、第五、何レモ留保スル事情ガアル、第六
ノ場合ハ強盜又ハ竊盜……是ハ御承知リ通ノ多クノ外ノ犯
罪嫌疑者ト云フモノハ一概トハ申サレマセヌガ、先ツ住居
モアリ、サウ所在ガ不明ニナルト云フコトハマアゴザイマ
セヌケレドモ、強盜竊盜ト云フ犯人ノ方ハドウモ所在ガ分
ラナイ、一體其外ノ犯罪ニナルト被害者ノ方面カラ誰ガ行
ブタンデアルカト云フ事方略ミ分ル、詐欺罪、暴行罪デモ誰
ガヤタカト云フコトハ分ルベキ關係ガアル、所ガ竊盜、強
盜ト云フ者ハ無關係デ何等ノ緣故モナイ者ガヤリマスカ
ラ、被害者方面カラモ誰カ分ラナイ、一朝所在ヲ失フト云フ
ト、其後ニナツテ之ヲ明カニスルト云フコトハ非常ニ困難デ
アル、一面カラ言ヘバ斯ウ云フ犯罪ハ良民ノ不安ト云フ事
ニ甚ダシク關係ガアルノデアリマス、サウ云フ次第デ、特別
ノ場合ニ特別ノ僅小ナル條件ノ下ニ一時身柄ヲ拘束スルコ
トヲ許ス、斯ウ云フ事ニナツテ居リマス、此意味ニ御了解ヲ
願ヒマス、ソレカラ其次ニ三百五十一條第三項、是ハ辯護人
ガ數人アル場合ニハ被告人ノ爲ニスル意見ノ陳述ハ重複シ
テ之ヲ爲スコトヲ得ズ、之ヲ削除スルト云フ衆議院ノ意見
デゴザイマス、是モ實際上削除スルト云フコトニハ同意ス
ルコトガ出來マセヌ、是ハ御承知デモゴザイマセウガ、今日
ノ實際ニ於キマシテハ辯護人ノ數ガ制限シテナイノデゴザ
イマスカラ、一ツノ事件ニ付テ澤山ノ辯護人ガ付キマシテ、

合ニ一時拘束スル事が出來ヌト云フ事ニナリマスト、被告
人ノ身柄ノ所在ハ不明ニナリマシテ、サウシテ結局犯人ニ
對シテ刑罰ヲ科スルト云フ事ハ出來ヌノデアリマシテ、刑
法ノ目的ヲ達セラレヌコトニナリマス、ソコデトウシテモサウ云フ弊ヲ矯メ
ハ、是等ノ者ガ所在不明ニナツテ居ルト云フ事ニナリマスト
云フト、良民ハ不安ニ堪ヘナ、良民保護ノ不安ニ堪ヘナ
イ、良民保護ノ方面カラ必要ヲ感ジテ居ルノデアリマス、ソ
レデ法文ニ明カニナツテ居リマス通り、斯ウ云フ特殊ノ場合
ニ在ツテハ、起訴ヲスルダケノ事情ガ備ハツテ居リ、起訴ヲス
レバ犯罪人ニ直チニ勾引狀ヲ出ス條件ガ備ハツテ居ル、併ナガ
ラ其手續ヲスル餘裕ガナ、斯ウ云フ全く特別ノ場合デア
リマス、是ハモウ實際上ノ立場カラ是ガ出來マセヌト非常
ニ困ルト云フコトハ殆ド疑ヒナイ事デアリマス、サウ云フ
次第デ此條文ハ是非此儘存置シナケレバナラズ、斯ウ考ヘ
テ居リマス、此場合ハ第一カラ第六マテ學ゲテゴザイマス
ガ、何レモ非常ノ場合デゴザイマス、例へば第一ノ如キ全ク
少シ猶豫スレバ何處へ行クカ分ラナイ、斯ウ云フ關係デ第
一、第二、第三、第四、第五、何レモ留保スル事情ガアル、第六
ノ場合ハ強盜又ハ竊盜……是ハ御承知リ通ノ多クノ外ノ犯
罪嫌疑者ト云フモノハ一概トハ申サレマセヌガ、先ツ住居
モアリ、サウ所在ガ不明ニナルト云フコトハマアゴザイマ
セヌケレドモ、強盜竊盜ト云フ犯人ノ方ハドウモ所在ガ分
ラナイ、一體其外ノ犯罪ニナルト被害者ノ方面カラ誰ガ行
ブタンデアルカト云フ事方略ミ分ル、詐欺罪、暴行罪デモ誰
ガヤタカト云フコトハ分ルベキ關係ガアル、所ガ竊盜、強
盜ト云フ者ハ無關係デ何等ノ緣故モナイ者ガヤリマスカ
ラ、被害者方面カラモ誰カ分ラナイ、一朝所在ヲ失フト云フ
ト、其後ニナツテ之ヲ明カニスルト云フコトハ非常ニ困難デ
アル、一面カラ言ヘバ斯ウ云フ犯罪ハ良民ノ不安ト云フ事
ニ甚ダシク關係ガアルノデアリマス、サウ云フ次第デ、特別
ノ場合ニ特別ノ僅小ナル條件ノ下ニ一時身柄ヲ拘束スルコ
トヲ許ス、斯ウ云フ事ニナツテ居リマス、此意味ニ御了解ヲ
願ヒマス、ソレカラ其次ニ三百五十一條第三項、是ハ辯護人
ガ數人アル場合ニハ被告人ノ爲ニスル意見ノ陳述ハ重複シ
テ之ヲ爲スコトヲ得ズ、之ヲ削除スルト云フ衆議院ノ意見
デゴザイマス、是モ實際上削除スルト云フコトニハ同意ス
ルト云フコトハ理山ハアルマイト思ヒマス、テは削除セ
ントス理山ハスウ云フ風ニ申シテ居リマス、從來即チ此
現行法ニ於テモスウ云フ規定ガアル、本人ハ抛棄スル意思
イマスカラ、一ツノ事件ニ付テ澤山ノ辯護人ガ付キマシテ、

ウナ弊ガアル、本人ハ歸ッテ來テ見テドウモ勤メラレタカラ
抛棄シテ仕舞ッタ云フヤウナコトデ、困々タコトガアル、サ
ウ云フ弊ヲ矯メルノニハ抛棄ト云フコトハ削ッテ仕舞ハナ
ケレバナラヌ、斯ウ云フコトガ主モナ理由デアルヤウデゴ
ザイマス、併シサウ云フコトガ實際上アルベキ筈ガナイノ
デ、サウ云フ其誤解ヲ生ジタ事柄ハ、此古イ時代ニ於テ裁判
所デ便宜ノ爲メニ略式命令抛棄ト云フ書面ヲ作ッテアリマ
ス、サウシテ本人ガ自ラ作ッテ出ス手數ヲ省イテヤタコト
ガアル、全ク當事者ノ便宜ヲ圖ッテヤツクコトガアリマス、其
事實ヲ捉ヘテ裁判所ノ方デ本人ガ好マスノニ拋棄ヲ強ヒタ
ト云フヤウナコトニ誤解サレタコトガアリマス、ソレデ爾
來サウ云フ誤解ヲ招ク虞ガアルカラシテ、多少當事者ノ便
宜デアッテモ裁判所ノ方カラサウ云フコトハシナイ方ガ宜
カラウト云フコトヲ、一般ニ司法省カラ訓令ヲ出シテ置イ
タ次第デアリマス、今日ニ於テハサウ云フ誤解ヲ招クヤウ
ナコトハナリ關係ニナツテ居リマス、サウ云フ次第デ、此削
除ニモ政府トシテハ同意イタシ難イ次第デアリマス、要ス
ルニ強く反対ヲ致サナケレバナラヌ簡條ハ今申上ゲタ條文
デゴザイマス、其他ニ於テハ明白ニ同意イタシ或ハ大體ニ
於テ異存ハナイ、強ヒテ反対ハシナイ、斯ウ云フ程度デ答ガ
シテアリマス次第デゴザイマス

○子爵池田政時君 只今ノ御説明デ大體ハ解シマシタガ、
此第百二十三條ヲ衆議院ニ於テ修正サレルト云フ、其修正
スルト云フ方ノ理由ハドウ云フ點ニアルノデスカ

○政府委員(林頼三郎君) 衆議院デ之ヲ削除シタコト云フ
理由ハ要スルニ此條文ヲ置クト云フト之ヲ濫用セラルル
場合ニ於テ非常ニ危險ガアル諸リ検事、司法警察官ガマダ
起訴ノ手續ヲシナイン中ニ身柄ヲ拘束スルト云フコトニナル
ノデアリマスカラ、此法文デハ成ホド明白ニ場合モ規定シ
テアッテ、條件モ定メテアルケレドモ、併シガラ實際局ニ當
ル者ガ之ヲ遵守セズシテ濫用スルト云フヤウナコトガアル
ト云フト危險デアル、斯ウ云フヤウナコトガ主モニナッテ居
ルヤウデアリマス、是ハドウモ私共カラ見マスト意外ノ質
問デアル、法律ガ場合ヲ規定シ條件ヲ定メマスレバ之ニ則ッ
テヤルト云フコトガ當然デアリマス、又ゾレヲヤルベク當
局トシテハ十分ニ監督ノ方法ガアルノテアリマス、サウ云
フ弊ト云フモノハ實際上ニ於テ断ジテサウ云フコトハナ
イ、斯ウ云フコトニ考ヘテ居リマス

○河村謙三郎君 政府ニ於テ御同意ニナ、テ居ル修正ノ中
デアリマス、極メテ輕微ナコトデアリマスガ、論理上少シ疑
九條及百十五條ニ於キマシテ、此原案ニ「夫」トアリマシタ
ノヲ「配偶者」ト改メタ、是ハ夫又ハ妻ト云フ意味デ改メタ

ノデアリマスガ、四十七條ハ原案ノ儘「夫」トシテアル、何故
此四十七條ダケハ「夫」ニ限ラナケレバナラヌト云フ理由ヲ
聊カ了解シ兼ネルノデアリマス、事柄ハ輔佐人トナルト云
フコトデアリマスカラ、妻デハ輔佐人トナルト云フコトハ差支ヘナイガ夫ガ健全
ヲ、女デモ輔佐人ニナルコトガアル、何故妻ダケヲ除外シテ
置カナケレバナラヌカト云フコトガ了解シ兼ネル點デアリ
マス、ソレハドウ云フ理由デ四十七條ダケハ原案ノ儘ニシ
テ置イテ、三十九條ト百十五條ヲ配偶者ニ改メルノデアル
カト云フコトヲ一ツ……

○政府委員(林頼三郎君) 只今ノ御尋不ハ御尤モノ次第デ
アリマシテ、是ハ衆議院ニ於キマシテモ初メハ四十七條ノ
方モ配偶者ト直シタラドウカ、ソレカラ又上訴申立ノ所モ
アリマスガ、其「夫」ト云フノ「配偶者」ト直シタラ宜カラ
ウ、斯ウ云フ意見モ出マシタ、段々色々論ジ詰メタ上デ此四
十七條ト、上訴ノ申立権利者ノ部分ダケヲ、「夫」ト云フコト
ヲ此儘トシテ配偶者ト直サナイト云フヤウナ意見ニ決定シ
タヤウナ次第デアリマス、是ハマア色々意見モアリマスガ、
辯護人ヲ選任スルコト、「保釋ノ請求ヲスル、是ハ夫ガ被告
人トナツテ居る場合ニ其數ニ於テ之ヲ行フト云フコトガ、實
際上必要ノコトガ多イ、又ソレガ爲ミニ何等ノ弊ヲ生ジナ
イト云フヤウナコトカラ、此二ツノ場合ニ於テハ現ニ立派
ナ夫ガアル婦人デアッテモスノ如キコトヲ爲スト云フコト
ハ妨ゲナイト云フノデ、結局同意イタシタ次第デアリマス
ガ、四十七條ノ方ハ、法廷ニ立テ獨立シテ此訴訟行爲ガ出
來ル關係ニナツテ居リマス、獨立シテト申シマスルト云フ
ト、被告人ノ意思ニ反シテデモ出來ル、自己ノ判断で出來ル
ト云フ事ニナリマス、現ニ法廷ニ出テ訴訟當事者トシテ訴
訟行爲ヲ行フコトガ出来ル、ソコデ女房ガ出マシテ女房ガ
ラウカト云フ考ガアリマスノデ、實際上是非必要ガアレバ
之ハ妻モ入レヌナラヌケレドモ實際ノ必要カラ見マシテ妻
ヲ或ハ輔佐人トシナケレバ被告ノ権利利益ノ保護上不充
分デアルト云フコトモアルマイト考マスノデ、サウ云フ方
面ト日本ノ此夫婦間ノ古來カラ養ハレ來テ居ル習慣トデ
モ申シマセウカ、サウ云フコトヲ考ヘマシテ、此場合ハ特ニ
其妻ヲ入レル必要ハアルマイカト、斯ウ云フコトヲ考ヘテ
居リマス

○河村謙三郎君 然ラバ此四十七條ニ於テ妻ヲ入レヌノハ
夫權ヲ尊重スル、夫權ニ關スル規定等ノ關係上妻ガ輔佐人
ナ法定代理人ト云フ關係ニナツテ居リマスガ、之ハ無論本人
ヲ保護スベキ又本人ヨリ立優々地位ニ大體認メテアルノ
デアリマスカラ、サウ云フモノハ勿論婦人デアッテモ宜シイ
ノデアリマス、現ニ夫婦關係ガ夫ハ被告人トハナツテ居ルガ
別ニ精神上ノ缺陷ガアル筈モナシ、此場合ニ妻ガ夫ト獨立
シテ訴訟行爲ヲシテ宣シイマタ斯ウ云フコトニスルト云
フコトハ必要ナカラウシ、又今日ノ日本ノ事情ニ照ラシテ
シテ夫權ヲ害スルヤウナ場合ハナイ、斯ウ云フコトヲ信
立シテ辯護人ヲ選定スル、其結果トシテ財政上トカ家ノ名
譽トカ夫ノ意思ヲ尊重シナケレバナラヌ場合ハ少ナカラ
ルト云フ理由ヲ以テナサレタ、斯ウ云フコトニ解スルヤウ
ニ思ヒマスガ、サウ云フコトハ他ノ場合例ヘバ獨
立シテ辯護人ヲ選定スル、其結果トシテ財政上トカ家ノ名
譽トカ夫ノ意思ヲ尊重シナケレバナラヌ場合ハ少ナカラ
ルトコトカ出来ルデアリマセウカ、其點ハ如何デアリマスカ
ト風ニ必ズシモヤカマシク申シタ意味デハアリマセス、實

○河村謙三郎君 モウ一應、妻ガ夫ノ後見人ニナルト云フ
場合ハ夫ノニ禁治産者ノ場合ニ限リマスノデアリマセウ
カ、ソレカラ夫ガ禁治産者デアル、夫ガ氣狂デアルト云フ場
合、妻ガ輔佐人トナルト云フコトハ差支ヘナイガ夫ガ健全
イト云フノデ夫ニ限タノデアラウカトモ思ヒマスガ、併ナ
ガラ法定代理人ノ中ニハ被害人ノ母モ居ル、直系卑屬ノ中
ノ祖母モ居ル、直系卑屬ノ中ノ娘モ居ルト云フノデアルカ
ラ、女デモ輔佐人ニナルコトガアル、何故妻ダケヲ除外シテ
置カナケレバナラヌカト云フコトガ了解シ兼ネル點デアリ
マス、ソレハドウ云フ理由デ四十七條ダケハ原案ノ儘ニシ
テ置イテ、三十九條ト百十五條ヲ配偶者ニ改メルノデアル
カト云フコトヲ一ツ……

○政府委員(林頼三郎君) 御尋不ハ御尤モノ次第デ
アリマシテ、是ハ衆議院ニ於キマシテモ初メハ四十七條ノ
方モ配偶者ト直シタラドウカ、ソレカラ又上訴申立ノ所モ
アリマスガ、其「夫」ト云フノ「配偶者」ト直シタラ宜カラ
ウ、斯ウ云フ意見モ出マシタ、段々色々論ジ詰メタ上デ此四
十七條ト、上訴ノ申立権利者ノ部分ダケヲ、「夫」ト云フコト
ヲ此儘トシテ配偶者ト直サナイト云フヤウナ意見ニ決定シ
タヤウナ次第デアリマス、是ハマア色々意見モアリマスガ、
辯護人ヲ選任スルコト、「保釋ノ請求ヲスル、是ハ夫ガ被告
人トナツテ居る場合ニ其數ニ於テ之ヲ行フト云フコトガ、實
際上必要ノコトガ多イ、又ソレガ爲ミニ何等ノ弊ヲ生ジナ
イト云フヤウナコトカラ、此二ツノ場合ニ於テハ現ニ立派
ナ夫ガアル婦人デアッテモスノ如キコトヲ爲スト云フコト
ハ妨ゲナイト云フノデ、結局同意イタシタ次第デアリマス
ガ、四十七條ノ方ハ、法廷ニ立テ獨立シテ此訴訟行爲ガ出
來ル關係ニナツテ居リマス、獨立シテト申シマスルト云フ
ト、被告人ノ意思ニ反シテデモ出來ル、自己ノ判断で出來ル
ト云フ事ニナリマス、現ニ法廷ニ出テ訴訟當事者トシテ訴
訟行爲ヲ行フコトガ出来ル、ソコデ女房ガ出マシテ女房ガ
ラウカト云フ考ガアリマスノデ、實際上是非必要ガアレバ
之ハ妻モ入レヌナラヌケレドモ實際ノ必要カラ見マシテ妻
ヲ或ハ輔佐人トシナケレバ被告ノ権利利益ノ保護上不充
分デアルト云フコトモアルマイト考マスノデ、サウ云フ方
面ト日本ノ此夫婦間ノ古來カラ養ハレ來テ居ル習慣トデ
モ申シマセウカ、サウ云フコトヲ考ヘマシテ、此場合ハ特ニ
其妻ヲ入レル必要ハアルマイカト、斯ウ云フコトヲ考ヘテ
居リマス

○河村謙三郎君 然ラバ此四十七條ニ於テ妻ヲ入レヌノハ
夫權ヲ尊重スル、夫權ニ關スル規定等ノ關係上妻ガ輔佐人
ナ法定代理人ト云フ關係ニナツテ居リマスガ、之ハ無論本人
ヲ保護スベキ又本人ヨリ立優々地位ニ大體認メテアルノ
デアリマスカラ、サウ云フモノハ勿論婦人デアッテモ宜シイ
ノデアリマス、現ニ夫婦關係ガ夫ハ被告人トハナツテ居ルガ
別ニ精神上ノ缺陷ガアル筈モナシ、此場合ニ妻ガ夫ト獨立
シテ訴訟行爲ヲシテ宣シイマタ斯ウ云フコトニスルト云
フコトハ必要ナカラウシ、又今日ノ日本ノ事情ニ照ラシテ
シテ夫權ヲ害スルヤウナ場合ハナイ、斯ウ云フコトヲ信
立シテ辯護人ヲ選定スル、其結果トシテ財政上トカ家ノ名
譽トカ夫ノ意思ヲ尊重シナケレバナラヌ場合ハ少ナカラ
ルト云フ理由ヲ以テナサレタ、斯ウ云フコトニ解スルヤウ
ニ思ヒマスガ、サウ云フコトハ他ノ場合例ヘバ獨
立シテ辯護人ヲ選定スル、其結果トシテ財政上トカ家ノ名
譽トカ夫ノ意思ヲ尊重シナケレバナラヌ場合ハ少ナカラ
ルトコトカ出来ルデアリマセウカ、其點ハ如何デアリマスカ
ト風ニ必ズシモヤカマシク申シタ意味デハアリマセス、實

際上ノ關係ト、ソレカラ古來カラノ日本ノ夫婦間ノ關係ト
云フコトヲ參酌シテマア此方カ宜シイト云フ意味アリマ
ス、ソレデ辯護人ヲ選任シマスル場合、實際ノ適用トシマシ
テハ被告人ガ現ニ拘留サレテ居ル、サウンテ公判期日モ、將
ニ近クナツテ居ルト云フヤウナ場合ニ、實際上此夫ノ意思ヲ
聞イテサウシテ辯護人ノ選任ヲスルヤウナ餘裕ノナイコト
ガ隨分アリマス、サウ云フ場合ニ此妻ニ全ク選任權ガナ
トスウ云フコトニナリマスト、被告人ノ權利ノ保護ノ上カ
ラドウモ至ラヌコトガ起ツテ來ルト云フヤウナコトガアリ
マスノデ、ソコデサウ云フ場合ニ、必ズシモ夫ノ意思ニ基カ
ズニ妻ノ方デ選任シマスルコトニシテモ選任サレタ辯護人
ガ訴訟行爲ヲスルコトニナルノデスカラ、サウシテ辯護人
ハ原則トシテ依頼人ノ意思ニ反シタ訴訟行爲ハ出來ナイコ
トニナツテ居リマスノト之ハ關係ガ違ツテ來ルノデ、此方ハ
差支ヘナイト斯ウ云フ考デアリマス
○政府委員(伯爵寺島誠一郎君) 本案ノ大體ニ付テノ御質
問及ビ特ニ衆議院ガ之ニ對シテ修正ヲ加ヘタ件ニ付テ御尋
ガゴザイマシタカラ、最早ソレラノ、以上ノ點ニ付テモ、ゴ
ザイマセヌヤウニ見受ケマス、付テハ此各章ニ付テ順次章
ヲ追ツテ御質問ニナツテハ如何カト思ヒマスガ、ドウ云フ御
考デゴザイマセウカ
○鈴木喜三郎君 各章ニ付テノ質問ト云フ御意見デゴザイ
マシタガ……
○委員長(伯爵寺島誠一郎君) イヤ御相談イタスノデゴザ
イマス、ドンナモノデゴザイマセウカト云フコトヲ……
○鈴木喜三郎君 私ノ考ハ、大體ノ質問ガ終了イタシマシ
テ、此儘御進行ナラ、各章ト云フコトニ、其順序ニナルノデ
ゴザイマセウガ、若シモハ小委員トカ何トカ云フヤウナ
モノヲ設ケルヤウナコトニナルノデアルナラバ、其小委員
ノ御方ニ委託シテ、然爾後又各委員ハ委員ノ總會ニ於テ質
問アレバ、質問スルヤウニシタ方ガ、或ハ取調ノ進行ノ上ニ
於テ好都合デハナカラウカト云フヤウナ考ヲ持ツテ居ルノ
デアリマス
○委員長(伯爵寺島誠一郎君) 只今鈴木君カラ小委員デ審
査研究サレテハ如何デアルカ、ソレカラ其後ニ又此委員會
ヲ更ニ開催シテ小委員カラノ話ヲ聞イタ上デ更ニ質問ガア
ルナラバ質問シタラ宜カラウト云フヤウナ御意見方出テ居
リマスガ、ドナタカ同意見デモアレバ、何カ形式ニ具ヘテ御
申出ニナツテ戴ケバ、進行上都合ガ宜イト思ヒマス
○淺田徳則君 私ハ此場合ニ小委員ヲ六名選定セラレテ、
サウシテ六名ニ正副委員長ヲ加ヘラレテ都合八名ニ相成リ
マス、其指名ハ委員長ニ於カレマシテ指名サレムコトヲ希
望イタシマス、其勧議ヲ提出イタシマス

○子爵池田政時君 贊成
○鈴木喜三郎君 贊成
○委員長(伯爵寺島誠一郎君) 只今淺田君ノ御勧議ニナリ
マシタ小委員六名、ソレニ正副委員長ヲ加ヘテ八名ニ於テ
之ヲ審査シ、小委員ハ委員長ニ於テ指名サレタラ如何カト
云フ御勧議ガ出マシタ、池田君竝鈴木君ガ御贊成ニナッテ居
リマスガ、其通りニ取計ヒマシテ、宜シウゴザイマセウカ

○委員長(伯爵寺島誠一郎君)只今淺田君ノ御勅議ニナリ
マシタ小委員六名ソレニ正副委員長ヲ加ヘテ八名ニ於テ
之ヲ審査シ、小委員ハ委員長ニ於テ指名サレタラ如何カト
云フ御勅議ガ出マシタ、池田君竝鈴木君ガ御賛成ニナッテ居
リマスガ、其通りニ取計ヒマシテ、宜シウゴザイマセウカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○委員長(伯爵寺島誠一郎君)御異議ナイト認メマス、然
ラバ左様取計ヒマス、茲ニ小委員ニナッテ、戴ク御方ノ御名
前ヲ申上ダマス、甚ダ御面倒デゴザイマスガ、御願ヒ致シタ
イト存ジマスノハ、河村善益君、河村謙三郎君、矢吹省三君、
岡田文次君、湯浅倉平君ノ六名ニ願ヒマス、是ニ正副委員長
ガ参加致シマシテ審査イタスコトニナッテ居リマス、是デ本
委員會ハ散會イタシマス

午前十一時五分散會出席者左ノ如シ

委員長 委員副長 伯爵寺島誠一郎
委員 伯爵寺島誠一郎
松室 致君

○鈴木喜二郎君 各章ニ付テノ質問ト云フ御意見デゴザイ
マシタガ……
○委員長(伯爵寺島誠一郎君) イヤ御相談イタスノデゴザ
イマス、ドンナモノデゴザイマセウカト云フコトヲ……
○鈴木喜三郎君 私ノ考ハ、大體ノ質問ガ終了イタシマシ
テ、此儘御進行ナラ、各章ト云フコトニ、其順序ニナルノデ
ゴザイマセウガ、若シモ或ハ小委員トカ何トカ云フヤウナ

○委員長(伯爵島誠一郎君)只今鈴木君カラ小委員デ審査研究サレテハ如何デアルカ、ソレカラ其後ニ又此委員會ヲ更ニ開催シテ小委員カラノ話ヲ聞イタ上テ更ニ質問ガアルナラバ質問シタラ宜カラウト云フヤウナ御意見ガ出テ居リマスガ、ドナタカラ同意見デモアレバ、何カ形式ニ具ヘテ御申出ニナツテ戴ケバ、進行上都合ガ宜イト思ヒマス
○浅田徳則君 私ハ此場合ニ小委員ヲ六名選定セラレテ、サウシテ六名ニ正副委員長ヲ加ヘラレテ都合八名ニ相成リマス、其指名ハ委員長ニ於カレマシテ指名サレムコトヲ希望イタシマス、其勧議ヲ提出イタシマス

貴族院過激社會運動取締法案特別委員會速記錄第五號正誤	正誤	正
一 一 一 六	下 二 中 同	行 二六 河村譲三郎君 二三 河村譲三郎君 伊澤多喜男君
		河村善益君 河村善益君 子爵伊東祐弘君

大正十一年三月三十日印刷

大正十一年四月一日發行

貴族院事務局

印製
上總司